

いきいき 消費者フォーラム in 2019 開催

5月18日(土)に福井市のアオッサで開催された「いきいき消費者フォーラムin2019」(消費者総合フォーラム交流展実行委員会主催)で、福井県生協連合会は毎年大好評の花ポットを販売しました。売上金は毎年、東日本大震災復興支援として募金しています。

また、立正大学心理学部教授 西田公昭氏による『人はなぜ騙されるのか～断り方のコツを学ぼう～』と題した講演会が開催されました。講師は、人間には「自分だけは大丈夫」と思いたい心理があり、詐欺師は人間の心理過程をうまくコントロールして騙すので、心理学から被害にあわない対策を考えるべきで、詐欺にあいそうになった場合を想定しての訓練が必要、と強調されました。

「ともに築こう 豊かな消費社会」

～誰一人取り残さない2019～



家族でたのしくまなぶ 防災・減災フェア2019開催

月日 3月21日(木・祝) 会場 ハピリン・ハピテラス



パネルディスカッション

さまざまな体験ブースを通じて家族で楽しく学んでいただこうと、労働福祉団体や全労済福井推進本部・福井県民生協が中心となって「家族でたのしくまなぶ 防災・減災フェア2019」を開催し、福井県生協連合会も共催しました。

パネルディスカッションでは『人はなぜ逃げないのか?』をテーマに、永平寺町長や福井市日之出地区自主防災組織連絡協議会、民生児童委員、防災・減災学習会を開催している消費者をパネリストに、それぞれの立場での「命を守るための取り組み」として、日ごろからの訓練と経験、一人では避難できない人の把握と対応策、住民としての備えなどについてお話いただきました。コーディネーターの松森氏(NPO法人まちの防災研究会理事長)がまとめとして、「行政は万能ではありません。行政にあなたの命をゆだねないでください。避難するかしないか、最後はあなたの判断です。皆さんの命は皆さん自身で守ってください…一人では避難が難しい方の援助など、地域で助け合いましょう」(平成30年7月西日本豪雨を受けて、避難のあり方について検討してきた政府の中央防災会議・作業部会がまとめた

日本国内で多くの自然災害が頻発している現在、福井で「もしも」があってもあわてない備えや知恵を、パネルディスカッションや講演、さまざまな体験ブースを通じて家族で楽しく学んでいただこうと、労働福祉団体や全労済福井推進本部・福井県民生協が中心となって「家族でたのしくまなぶ 防災・減災フェア2019」を開催し、福井県生協連合会も共催しました。

報告書の抜粋)を紹介しました。

午後からはアウトドア防災ガイドのあんどうりす氏による講演が行われました。「アウトドアグッズには自分の命を自分で守る知恵が詰まっている」として、災害時の天候に応じた服の着方や重い荷物を軽くする荷物の詰め方など、ふだんの実生活にも役立つ知恵をお話されました。

ブース会場のハピテラスでは、空き缶を使っての「サバイバルめしたき」やダンボールでの簡易トイレ作り、大きなビニール袋を使ってのカップ作りなど体験を中心に13のブースが並びました。

全労済福井推進本部のブースでは、パソコンを使って「防災クイズ&シミュレーター体験」にチャレンジし、防災知識を深めることができました。福井県民生協のブースでは、日ごろから食べ慣れている日持ちする食品を多めに備蓄して、食べながら補充するという「ローリングストック法」の説明や非常食の試食を行いました。

各ブースをめぐるクイズラリーや起震車による地震体験もあり、多くの親子連れがブースを回りながら、災害から身を守るために何をすればよいのか、日頃からの防災意識を高めることの大切さを学んでいました。



3.11 を忘れない

～復興を担う女性たち～

「南三陸町の漁業者の思い、町の魅力を伝えたい」 たみこの海パック

「津波を目の当たりにして、もう養殖はやれないと思った」と阿部民子さんは言います。しかし家業である漁業から離れるわけにはいきません。「だったら私は自分にできることで自分の居場所をつくろう」。そう考えて阿部さんは2012年10月、南三陸町の特産品を販売する「たみこの海パック」を立ち上げました。

「南三陸の海産物をお土産に買って帰りたい」というボランティアの声をヒントに、複数の水産加工場から商品を仕入れ、独自の詰合せセットを考案。ホームページ「たみこの海パック」を開設し、オンラインストアで通信販売を始めました。さらに女性が短時間でもイキイキと働ける場所をつくりたいと願い、子育て中の女性を一人雇いました。女性は海藻類の袋詰めを、阿部さんは販売に奔走しました。「ボランティアさんに直接、買ってくださーいとお願ひし、近くの道の駅やスーパーに扱ってほしいと頼みにきました」。

販路が広がるにつれて売上も増え、翌年秋には黒字を計上できるようになりました。「震災をきっかけに事業を始めた私の生き方を理解し、応援してくれている人たちがたみこの海パックを育ててくれました。人に恵まれたと思います」。

阿部さんには「たみこの海パック」を通じて南三陸町の漁業者の取り組みや町の魅力を伝えていきたいという思いがあります。

そのため商品に浜の様子や復興の歩みを伝える「たみこの四季だより」を同封したり、ワークショップで来町した人たちに南三陸町の漁業の特徴などを描いた紙芝居を披露したりしています。

「震災直後、漁業者は収入減を覚悟の上でカキの養殖いかに3分の1以下に減らし、環境に配慮した養殖に切り替



▲阿部民子さん。「たみこの海パック」のアイデアは震災前の14年間、自家製の海産物を友人、知人を通して電話やFAXで販売してきた経験から生まれました。

えました。みんな不安と葛藤のなかでスタートしたのです」。おかげで日本で初めて国際認証ASC(※)を取得できたこと、栄養が行き届いてより美味しいカキが獲れるようになったこと、海藻は漁業権を持った、主に女性たちが岩場を歩いて採っていることなどなど。

「売りたい伝えたい相手は県外・関東の人たち」と阿部さんは言います。それは大きな消費地に住む人たちにこそ生産地である南三陸町の海産物を味わってほしいから、町に足を運んでほしいからだ。

「課題は“伝えること”ですね。インスタやフェイスブックなどSNSを使って発信を続けていきます」と笑顔を見せます。



▲方言やレシピを載せた「たみこの四季だより」、養殖体験ツアー、ワークショップなどを通じて南三陸町を「伝えて」います。

※ASC認証/養殖水産物に対するエコラベル。環境に負担をかけず地域社会に配慮して操業している養殖業に対する国際的な認証制度。
たみこの海パック <https://www.tamipack.jp/>

福井県学校生協 ボランティア活動報告

地域の方と児童が協力して 海岸を美しく



小浜小学校では、5・6年生が毎年7月中旬に小浜市白鳥海岸で遠泳大会を実施しています。そこで、遠泳大会の練習が始まる6月28日(木)、海岸の清掃活動を実施しました。

小浜地区区長会を通して地域の方々にも協力をお願いして、当日は児童79名と地域住民約100名が参加し、午後1時から1時間ほどかけて清掃を行い、きれいな海岸にすることができました。

